

事業費の推移

区 分				単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度		
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	公共下水道事業補助金	千円	99,080	1,300				0		
	道支出金	名称		千円						0		
	地方債	名称		千円	77,300	1,200				0		
	その他	名称		千円	135,662	1,800				0		
	一般財源	名称		千円						0		
合 計					312,042	4,300	0	0	0	0		
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費				職 員	千円	1,343	689					
				嘱 託 員	千円	0	0					
				臨時職員	千円	0	0					
				合 計		1,343	689					

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ し尿投入施設の建設により、し尿及び浄化槽汚泥を環境への負荷が少ない方法で処理することが目的であり、市が実施することが妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 平成22年度中に試運転を開始し、当初の予定どおり事業を進めることが出来た。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？向上させることができない理由は何ですか？ 当初の予定どおり事業が進捗しており、事業を継続することにより、成果を向上させることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？削減できない理由は何ですか？ 工事費は、国や道の工事積算を基本としており、最低限必要なものとなっている。また、事務に係る人件費についても必要最低限のものとなっている。

担当グループによる評価

終了	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	し尿及び浄化槽汚泥を環境への負荷が少ない方法で処理することを目的とした「し尿投入施設」が完成した。
----	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

終了	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）